

首都圏初の「マンション用 戸別太陽光発電システム」が稼動

首都圏（東京電力管内）では初めてとなるマンション戸別太陽光発電システムを、川崎市の新城社宅に試行設置し、2009年12月18日から36戸が稼動した。

当社独自のパワーコンディショナ（※）を用い、マンション各戸の太陽光発電を可能としたもので、戸建ユーザーと同様に、太陽光発電による余剰電力買取制度の対象となり、マンションユーザーでも居住者が電気の使用を節約した分のメリットを享受することができる。

本システムは、パワーコンディショナのもつ「停電を感知する仕組み」が相互干渉し誤作動するという問題を、横浜製造所内に10月に竣工したパワーコンディショナ大規模干渉試験装置を用いてクリアした。これにより他社に先駆けて新築、既築、小規模から大規模のマンションまで対応可能とした。2010年度内に正式発売を目指す。

※パワーコンディショナは、太陽電池モジュールで作られた直流電力を家庭で使える交流電力に変換する装置。

（エネルギーシステム開発部 システム開発1グループ 志村 龍）

【新城社宅（36戸）太陽光発電システム概要】

HIT 太陽電池モジュール (HIP-200NKH：三洋電機製) 200W	各住戸6枚×36戸 = 216枚
システム最大出力合計	200W × 216枚 = 43.2kW
パワーコンディショナ (ENS12-090：新日本石油製) 1.2kW	36台



新城社宅へ設置した太陽光発電パネル



国内最小A4サイズ
ENEOS パワーコンディショナ